

## <11月> 「ドングリコースターうまく転がらへんなあ」

○ねらい 友達と関わりながら、共通の目的に向かって協力して遊ぶ中で、充実感や満足感を味わう。

○内容 遊びがより面白くなるように、友達と共通の目標に向かって試したり、工夫したりする。

### 環境構成 保育者の援助

①じっくりと遊びに取り組むことができるように、継続して遊び続けられる場所や十分な時間を確保する。  
・遊びに必要な材料や用具を自由に選んで使えるように分類し、手の届く所に準備しておく。

②幼児自身が「友達と力を合わせてできた!」という気持ちを感じられるように、すぐに答えを出さず、自分達で考えられるような言葉をかけたり、できるだけ見守ったりする。

ユウは①毎日、トイレトペーパーの芯等の材料を好きな長さや形に切り、ドングリコースターづくりをしている。①「ここには落とし穴。こっちは『ぐるぐるコース』で、反対の方は『崖コース』にしよう!」と言いながら、つないでいる。ケンタも「じゃあ、看板つくろうか?お客さんを呼ぶならチケットもいる?」ヒロシ「ジャンプ台もいる?」と伝え、作り始める。

ドングリを転がし、ユウ「うーん…ここから落ちてしまう」とじっと見つめていると、ケンタがそばに来て「やり直したらいいやん」とできたユウのコースを外そうとする。ユウ「やめて!せっかくできたのに!」と大きな声を上げると、ケンタ「でもここ、あかんやん」と指をさす。②ユウはケンタをにらみつける。②保育者「全部壊さなくても、直せたらいいなあ」と言うと、ユウ「壁を付けたらいいやん!」と目を見開いて言う。そしてドングリが落ちる場所を探し、切った芯を貼って壁にしようとするが、なかなか貼れずにいた。ヒロシが「もってあげるわ」と支えると貼ることができ、2人は③顔を見合わせて微笑む。ケンタも「手伝うわ」と3人で、コースを壊さないように慎重に壁を貼っていく。

全てを貼り終えたユウが「よし!いくで…」とドングリを転がすと、「400 てん」とかいたカップにコロんと音を立てて入る。ヒロシ「成功や!」ユウ「うん!」と笑顔を見せる。ケンタ「ドングリを守ってる!ガードレールや!」と大きな声で言う。ユウ「落ちてしまう所はガードレール作戦で修理したらいいな。④他にもガードレールがある所があるかなあ」と、ドングリを転がして修理する場所を探し始めた。



### 内面の読み取り

①次々と頭に浮かぶイメージを言葉にし、実現させたいと思っている。また、自分のアイデアに自信を持っている。

②途中で落ちてしまうことは理解していたが、やっとできたものを簡単に壊したくなかったため、友達の言葉に苛立ちを感じた。

③手伝ってもらうことで自分の思う場所に貼ることができた嬉しさやヒロシの優しさに触れ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じた。

④仲間内で分かる名前を付けたことで、喜びを共有し、やり遂げた達成感を味わうことができた。

### < 考察 >

ユウはドングリコースターをつくり、妹のクラスを招待したいという思いがあった。自分なりの目的やイメージをもち、遊びを進めていたユウが、困った時に友達の助けを受け入れられた要因は、「ドングリコースターを完成させたい!」という強い思いがあったからだろう。友達と協力することで思いを実現できた経験が、共通の目的に向かって遊ぶ楽しさや充実感につながった。

### < 幼児の学び >

- ・友達の思いを受け入れて協力し、最後までやり遂げようとする諦めない気持ち
- ・自分がイメージしたものができた喜び、達成感

### < 小学校の先生の気付き >



いろいろな材料を使っただけのモノづくりは、小学校の図画工作や生活科の学習にもつながっていますね。

廃材を使うなど、環境を考えたSDGsの視点は、小学校でもこれから考えていくことの一つになっています。幼児期からSDGsの素地が身に付いているって素敵ですね。

